

Capabilities of Upper Extremity Test

CUE-T™

Manual of Administration

Version 1.1 (日本語版) : (July) 2021

Public edition (November) 2021

Ralph.marino@jefferson.edu

(日本語版 ; kazumasa.jinbo@chiba-reha.jp)

日本語版 CUE-T 作製にあたって

近年、様々な疫学調査において外傷性脊髄損傷の発生数は増加傾向であり、その内訳として四肢麻痺が大半を占める。脊髄損傷による四肢麻痺では上肢機能に障害を呈し、日常生活動作（ADL）に制限を受けることが多い。一方で、本邦における脊髄損傷四肢麻痺に特化した上肢機能評価法は乏しく、これに対する専門的な評価の必要性が高まっていた。

Capabilities Upper Extremity Test（CUE-T）は脊髄損傷四肢麻痺に特化した上肢機能評価法であり、Ralph J. Marino 医師らによって開発された。CUE-T は 2012 年頃から国際的に報告がなされてきており、臨床試験の効果判定にも使用されている。CUE-T の特徴は、特別な評価キットを購入せずに日用品を使用することで脊髄損傷四肢麻痺に特有の上肢を用いた『Functional Limitations（（活動面における）機能制限）』を数値化することができることである。CUE-T は各方向へのリーチ動作を含む片手動作やプッシュアップや重錘を持ち上げる両手動作を確認する粗大動作、把握、つまみ動作、手関節・示指・母指運動を必要とする物品操作を確認する巧緻動作で構成されている。それぞれの課題に応じて、30 秒間の指定された動作の回数、指定された動作の保持時間、操作できた重錘の重さ、物品操作、動作の速度、質で評価を行う。

CUE-T は 2019 年に千葉県千葉リハビリテーションセンターで本邦では初めて試行的に導入し、この信頼性、妥当性を検討し、本邦における臨床的な有用性について証明した。これを受けて、日本語版 CUE-T の作成に関して開発者の Tomas Jefferson 大学 Ralph J. Marino 医師に打診したところ、快諾をいただき、今回の日本語版 CUE-T を作成するに至った。

今後、日本語版 CUE-T の更なる臨床的有用性を検証し、脊髄損傷当事者はもとより、脊髄損傷に携わる様々な方々に有用な情報を発信していけるように努めていきたい。

なお、日本語版作成にあたってご協力いただいた研究協力者の皆様、日本語版 CUE-T の作製を快諾して下さった Ralph J. Marino 医師 (Thomas Jefferson University, Department of Rehabilitation Medicine)、日本語版 CUE-T の翻訳を担当して下さった Crimson Interactive Pvt. Ltd. (Ulatus ; www.ulatus.jp) に心より感謝申し上げます。

千葉県千葉リハビリテーションセンター
センター長 菊地 尚久

千葉県千葉リハビリテーションセンター
リハビリテーション治療部 成人療法室 第二作業療法科
茨城県立医療大学
大学院 保健医療科学研究科
作業療法士 神保 和正

検査者への説明：

この検査を実施するためには検査者 2 名が必要です。検査者は反復動作の回数を数え、適切な技術を実践的に用いて、各タスクの時間の計測を担当します。検査者を 2 名用意するのが不可能な場合は、検査を動画撮影し、後ほど反復動作の回数を数えるようにします。

各項目について被験者に説明して実演を行い、項目の検査をする前に被験者に一度タスクを練習してもらいます。検査で右側と左側を行う場合は、被験者は右側を検査する前には右腕/右手で、左側を検査する前にはやはり左腕/左手で練習するようにします。

各タスクを開始する場合には「はじめ (GO)」と言ったときにタイマーを押します。

被験者が練習中にタスクを終了できない場合は、被験者が部分的反復動作として数えるのに十分に実行できるかどうか確認します。適切に実行できない、または部分的に実行できるとしてスコア付けを行い、対側/次の項目に移行します。30 秒間測定する必要はなく、または、より大きいウエイトに進む必要はありません。

1つの項目で 1 回の反復動作が部分的に完了可能な場合、この結果は最初の反復動作にのみ適用されます。複数回の部分的完了は数えません。

被験者が 5 秒間試行を反復できない場合は、時間の測定を中止することができ、完了した反復動作の回数を記録します。まずは被験者に、継続することができるかどうかを尋ねます。被験者が単にアイテムを落としているという場合、または休憩している場合は、検査を中止しないでください。

反復動作を複数回行う必要のある項目のトライアル中には、励ましを行います。パフォーマンスのエラーは直ちに修正し、間違っで行われた反復動作は数えません。

被験者が項目の実施時にスタート位置に戻っていない場合、検査者は被験者に戻るよう再度説明しますが、検査の時間測定を中止することや検査を再開することはしないでください。

被験者がアイテムを落とした場合は、それが最後に拾われた場所にもう一つ置くか (サイコロ、鉛筆)、または被験者の手にそれを戻します (TWO-COLOR CHIP)。時間の測定を中止することや検査を再開することはしないでください。

スコア付け：

データ収集シートに指示通りにデータを記録します。

これらの元スコアは、0 から 4 の 5 段階尺度に変換されます。

被験者への説明

「このツールは上肢機能の評価に用います。評価の間、あなたの腕や手を使ったさまざまなタスクを実行してもらいます。いくつかの項目については、与えられた時間でできるだけ多くの反復動作を終了するように求められます。これらの項目については、特定の動作をそれぞれ素早くかつ正確に行うように注意してください。それぞれの反復動作を数えるには、反復動作が完了していなければならないためです。」

ITEM 1: REACH FORWARD

動作

腕を前に伸ばし、正面にあるターゲットに直接触ります。

目的

肩の高さで正面のどれだけ遠くまで腕を動かすことができるかを判定します。

器具

タイマー、ベルクロのついた物差し、丸いターゲット、L字ブラケットの付いた木製ブロック、留め具、2kgの重り（ウエイト）、（高さが調節可能なテーブル）、滑り止めマット

重要な要素

被験者は（車）椅子に座り、背もたれに背を付けるようにする必要があります。ターゲットは被験者の肩の高さ、かつ正面で手が他動的に届く限界に設置します（屈曲、内転・外転なし）。

器具の設定

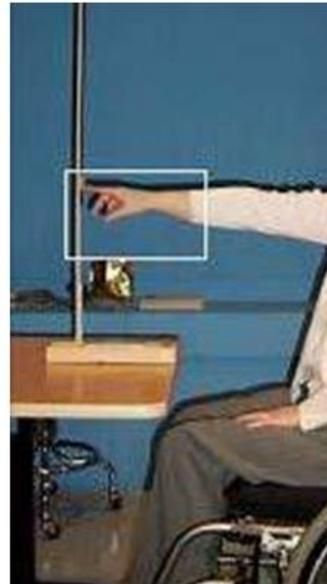
L字ブラケット付き木製ブロックを滑り止めマットの上に置きます。留め具を使い、物差しを木製ブロック上のL字ブラケットに固定します。物差しを肩に合わせてテーブルの上に設置します。木製ブロックに2kgのウエイトを置き、検査中に木製ブロックが安定するようにします。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に座り、背もたれに背を付けるようにします。手は太腿の上に置きます。物差しを肩に合わせて被験者の正面に設置し、ベースを2kgのウエイトで安定させます。肩関節を90°に屈曲して被験者の腕を他動的に完全に伸ばします。被験者が身を乗り出すことなくターゲットにちょうど触られるように手の高さにターゲットを設置します。被験者は指を完全に伸ばすことができない場合、指関節部でターゲットに触れることができます。タイマーを30秒から0秒に遡るように設定します。スタート位置：手は同側の太腿の上。



安定させるためベースに 2kg
のウェイトを置く



被験者への指示

「右（左）手を丸い標識に伸ばして触れ、手を膝の上に戻します。身を乗り出すことはできません。背を椅子の背もたれに付けたままにしておきます。これを今練習してください。」

（被験者が動作を行う）

「それでは、30 秒間でできるだけ多く行ってみます。それぞれの反復動作を完全に完了させるようにしてください。準備はよろしいでしょうか。」

（応答を待つ）

「私が「はじめ（GO）」と言ったら開始してください。」あなたは、「はじめ（GO）」と言った時にタイマーを押します。

スコア付け

30 秒間で完全に反復動作した回数を記録します。

完全な完了とは、ターゲットに触れた後、手を完全に太腿に戻したときです。
部分的完了には、手が肩の高さで、少なくともターゲットに向かう半分まで到達することが要求されます。画像を参照してください。

注記

まずは、被験者に、手を伸ばしてターゲットに到達し、手を太腿に戻す練習をしてもらいます。被験者がタスクを完全に理解し、あなたはこの完全な反復動作の回数を数えるだけだということを確認します。被験者が練習中にタスクを完全に完了できない場合は、被験者が部分的反復として数えられるだけ十分に動作を行えるかどうかを確認します。必要に応じて、部分的または実行できないとしてスコア付けし、反対側/次の項目に移ります。

重要：検査中には励ましやフィードバックを行います。被験者がターゲットに触らなかった場合は、標識に確実に触れるように被験者を指導します。検査者はその反復を数えないようにします。検査を中止または再開しないでください。

ITEM 2: REACH UP

動作

腕をまっすぐに頭の上に挙げます。授業中に挙手をするように行います。

目的

被験者がどれだけ高く手をまっすぐに身体の上に挙げられるかを判定します。

器具

タイマー、高さが調節可能なテーブル、物差し、L字ブラケット付き木製ブロック、留め具

重要な要素

物差しは、視覚的な標識としての役割を果たし、手が被験者の正面よりもむしろ頭の上に挙がっていることを確認します。身体の正面で許容可能な距離の限界は、上腕の長さです。これは、腕を横に挙げた場合に当てはまります。すなわち、手が上腕の長さよりも身体の外側に出ることはありません。肩関節が 90° に屈曲しない場合は、肩関節から肘関節までの距離を測定し、肩関節の正面のその距離の場所に物差しを置きます。

器具の設定

留め具を用いて物差しを木製ブロック上のL字ブラケットに固定します。物差しをテーブルの上に置き、肩関節を 90° 前方に屈曲させたときに、肘関節に沿わせるようにします。

セットアップ手順

被験者は椅子に座り、背もたれに背を付けるようにします。肩関節を 90° 前方に屈曲させ、物差しを肘関節に沿わせます。手は太腿の上に置きます。

検査者の位置：物差しの正面がまっすぐに見える被験者の横に位置し、検査中に腕と手の位置を正確に検証します。タイマーを 30 秒から 0 秒に遡るように設定します。スタート位置：手は同側の太腿の上。



被験者への指示

「授業中に挙手をするように右（左）手をまっすぐに頭の上に挙げ、膝の上に戻します。これを今練習してみてください。」

（被験者が動作を行う）

「それでは、30秒間でできるだけ多くそれを行って見ます。それぞれの反復動作を完全に完了させるようにしてください。準備はよろしいでしょうか。」

（応答を待つ）

「私が、「はじめ（GO）」と言ったら開始してください。」

あなたは、「はじめ（GO）」と言った時にタイマーを押します。

スコア付け

30秒間で完全に反復動作を行った回数を記録します。

完全な完了とは、肘関節をまっすぐにして頭の上に伸ばした後、手を完全に太腿に戻した場合です。

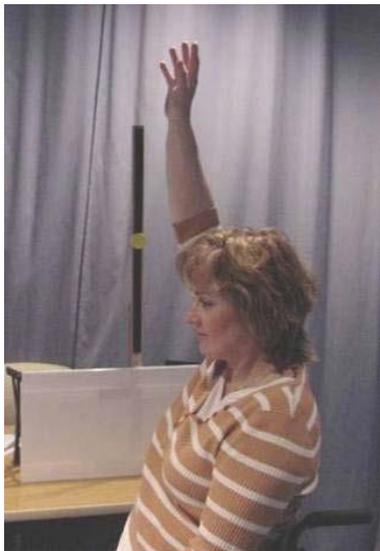
部分的完了には、手は頭の高さより上にあり、垂直に立てられたターゲットよりも後ろにある必要があります。右下の画像を参照してください。

注記

数えるために、手は被験者の身体と物差しの間になければなりません。許容可能な範囲については画像を参照してください。設定や練習中に、被験者がターゲットエリアを理解し、正確に手を挙げた場合のみ数えることを理解していることを確認します。完全な反復動作のみ数えます。

重要：検査中には励ましやフィードバックを行います。被験者が手を完全に上に伸ばしていない場合は、確実に手をまっすぐに頭上に挙げるように被験者を指導し、その試行は数

えないようにします。検査を中止または再開することはしないでください。



完全な完了
腕が完全に伸びていること



部分的な完了
手が頭の上にあること

ITEM 3: REACH DOWN

動作

床に触れるように手を下に伸ばし、背筋を伸ばして座ります。別の腕でアームレストをひっかけたり、それを使い自分自身を引き上げたりしないようにします。

目的

被験者がどれだけ遠く下に手を伸ばし、元に戻すことができるかを判定します。起き上がるために椅子のどの部分も使うことなく、靴のつま先の真横まで伸ばします。

器具

タイマー、ターゲット（丸い標識）、物差しまたはメジャー、矢印付きのポストイット

重要な要素

被験者は（車）椅子に座り、ターゲットは第5趾の真横で、股関節と膝関節は90°に屈曲し足首は自然な位置にします。被験者の膝は腰よりも高くならないようにします（大腿部水平）。被験者が拘縮を伴う場合は、望ましい位置であれば第5趾がくると考えられる場所にターゲットを置きます。

検査の最中に、被験者は、背を椅子の背もたれに付けて完全に伸ばした位置に戻るのを助けるため、椅子のいかなる場所も使うことはできません。

器具の設定

上述のように被験者は椅子に座り、ターゲットは第5趾の真横に置きます。脚の長さを測り、脚の半分下の部位に矢印を貼ります。（注：被験者の練習後までこの手順を待つことができます。被験者がタスクを完了することができる場合は、脚長の半分を測定する必要はありません。被験者がターゲットに触れて起き上がることができない場合は、その距離を測定します。）

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に座り、背もたれに背を付けるようにします。手は大腿の上に置きます。ターゲットは靴の第5趾の真横（被験者が車椅子に座っている場合はフットレスト）に置きます。被験者の股関節は90°以上屈曲させない（膝が腰よりも高くならない）ようにします。それが避けられない場合は、上の「重要な要素」のセクションに記載されているようにターゲットを調整し、同等の距離だけ離れているようにします。

検査者の位置：被験者の横。安全性を確実にするために必要があれば、被験者を支援できるように、極力近くにいるようにします。タイマーを30秒から0秒に遡るように設定します。スタート位置：被験者は椅子に背筋を伸ばして座り、手は同側の大腿上。

被験者への指示

「つま先の横にあるターゲットに触れるように右（左）手を下に伸ばし、背筋を伸ばして座ります。別の腕を椅子に引っ掛けたり、それを使って自分自身を引き上げたりしないようにします。脚の力で起き上がることはできますが、起き上がるために（車）椅子のいかなる部分も使うことはできません。再び下に手を伸ばす前に、背を椅子の背もたれに付けてまっすぐに座り、手を太腿の上に置いた位置に戻らなければなりません。ターゲットに触れて起き上がることができない場合は、できるだけ遠くまで手を伸ばし、それでも元の位置に戻ることができるまで手を下に伸ばします。これを今練習してみてください。」

（被験者が動作を行う……完全に完了できない場合は腰から足までの半分の距離を測り、標識をつけます）

「それでは、30 秒間でできるだけ多くそれを行ってください。それぞれの反復動作を完全に終了させるようにしてください。準備はよろしいでしょうか。」

（応答を待つ）

「私が「はじめ（GO）」と言ったら開始してください。」

あなたは、「はじめ（GO）」と言った時にタイマーを押します。

[注：少なくとも半分まで下に伸ばすことは3回のトライまでであきらめ、部分的完了として元に戻ります]



スコア付け

30 秒間で完全に反復動作を行った回数を記録します。

完全な完了とは、被験者がターゲットに触れて、背を背もたれにつけて背筋を伸ばして座り、手を同側の太腿の上に置いた状態に戻った場合です。

部分的完了には、膝から足までの距離の少なくとも 50%に到達し、元に戻ることが要求されます。

注記

ITEM 4: LIFT UP

動作

両腕を使い、正面で大きな物品をできるだけ高く持ち上げます。

目的

物品を棚の上に置くように、腕で物品を頭上に持ち上げられるかどうかを判断することです。どのように腕を動かしても構いません。（例えば、伸ばした状態で固定したり、上腕三頭筋を使ったりすることもできます。）被験者は自分の腕だけではなく、物品を持ち上げることが要求されます。これは両手を使うタスクです。

器具

テーブル、物差し、留め具、ウェイトラップ、胸部ストラップ。ウェイト：0.5kgのウェイト2つ、1kgのウェイト1つ

重要な要素

物差しは標識として使用され、物品を棚の上に置くように、アイテムが被験者の正面で持ち上げられることを確認するのに使用されます。手は物差しよりも前にある必要があります。物差しは被験者の大腿中央の位置に置きます。

検査について：被験者の片側の腕力のほうが強い場合は、弱い側の上肢は少なくとも目の高さまで上がっていなければなりません。

器具の設定

手関節の固定ラップ。ウェイトの開口部は被験者と反対の方を向いているようにします。被験者の太腿の真ん中（腰と膝の中間）に一致するように物差しを置きます。許容可能範囲を次頁の画像のターゲット枠に示します。体幹を安定させるため、胸部ストラップを使用することも可能です。

セットアップ手順

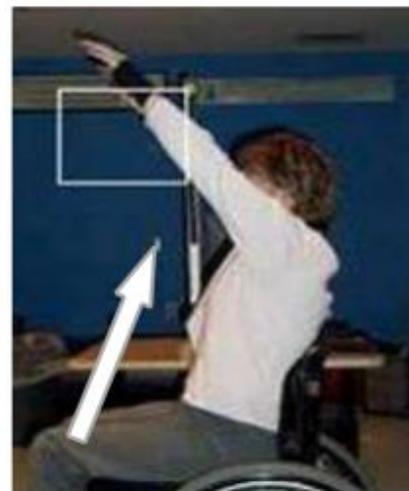
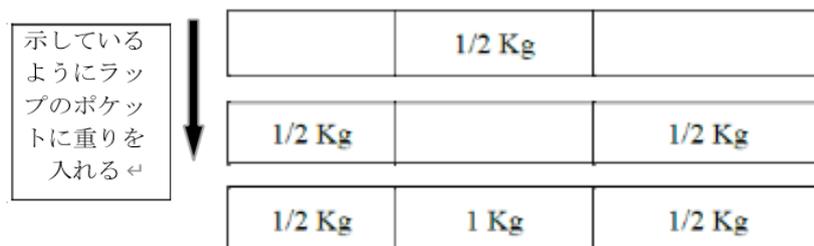
被験者は（車）椅子に座り、背もたれに背を付け、テーブルの脇に位置取りします。手が膝のまっすぐ上にできるだけ高く上がるように、被験者の腕を他動的に伸展させます。スタート位置：手は大腿の上に静かに置きます。

被験者への指示

「棚の上に物品を置くように、正面で腕をできるだけ高く挙げます。これを今練習してみてください。」

（被験者が動作を行う）

1 回持ち上げた後で成功した場合、続けてウェイトを追加して合計が 0.5kg、そして 1kg、次に 2kg となるようにして、各反復動作後に指示を繰り返します。



ウェイトの付いたラップを持ち上げる際はこの線より前になるようにします。

スコア付け

持ち上げたウェイトの量に基づいて評価付けします。

完全な完了とは、少なくとも目の高さまで届き、太腿中央正面にある場合です。

ターゲット領域については上の図に示す枠を参照してください。

部分的完了の評価付けなし。注記

この項目については、手が物差しの「後ろ」にある「上に伸ばす」項目とは異なり、手が物差しの「正面」にあるようにします。

ITEM 5: PUSH DOWN

動作

臀部（両側）を座席から持ち上げるに十分なだけ、両腕で椅子を押し下げます。（例：押し、体重を移動させる。）

目的

座っているときに自分の身体を座席から持ち上げるのに十分な上半身の強さを持っているかどうかを判定します。

器具

ストップウォッチ、椅子に機能的なブレーキがついていない場合はタイヤ用の木製ブロック、肘掛け椅子（歩行可能な人の場合）

重要な要素

被験者は座席から身体を持ち上げるために押し付けるものを持っていないければなりません。これは椅子または車いすのアームレストか、もしくはアームレストがなくてタイヤに十分な高さがある場合はタイヤでもかまいません。

足を動かすことのできる被験者は、正面で足をクロスさせ座席から臀部を持ち上げることができないようにします。

器具の設定

必要であれば、椅子が回転しないように車椅子のタイヤのいずれかの側に木製ブロックを置きます。

ストップウォッチを用いて被験者が臀部を座席から持ち上げていた時間を記録します。

セットアップ手順

被験者は車椅子または肘掛け椅子に直立の姿勢で座り、手をアームレストまたはタイヤに置きます。

被験者が自分で姿勢保持できない場合は、検査者が被験者のために上肢の位置をとらせることができます。

被験者が歩行可能または足を動かせる場合は、被験者の足を正面でクロスさせ、踵を床に付けて足を伸ばします。

被験者への指示

「腕を使って座席から身体を持ち上げ、自分自身をできるだけ長い間支えてください。30秒間持ち上げたままにいるように試してみてください。」

[被験者が脚を動かせる場合は、「脚を使って補助しないようにしてください」と付け加える]
準備はよろしいでしょうか。]

（応答を待つ）

「私が、「はじめ（GO）」と言ったら開始してください。」

「はじめ（GO）」

被験者が完全に座席から浮き上がるまでタイマーを押さないようにします。

被験者が座席から臀部を離れたままできなくなったときにタイマーを止めます。

被験者が 30 秒に到達したら「やめ（STOP）」と言います。

スコア付け

支えた時間の長さに基づいてスコア付けします。0.1 秒単位まで支えた時間を記録します。

注記

被験者が座席から離れたことを確認するため、検査者は（車）椅子の隣に膝をつき、臀部が座席から離れる際にはっきりと見えるようにします。また同じ検査者は、被験者が完全に座席から浮き上がったときにタイマーをスタートさせます。



ITEM 6: WRIST UP

動作

前腕をテーブルまたはアームレストの上に置いたまま、手掌を下にして手関節を背屈します。

目的

手関節を背屈させる能力を評価します。

器具

タイマー、高さが調節可能なテーブル、L字ブラケット付き木製ブロック、留め具、分度器、アームストラップ、矢印つきポストイット
分度器は中心が 0° で、 -90° から $+90^{\circ}$ の範囲。

不可決な要素

手関節を完全に屈曲できるように手を表面の端部に置くようにします。

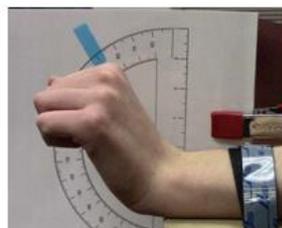
他動的に手関節を背屈させることで手関節の背屈可能な範囲を判定します。力を入れて伸展させないようにします。

検査の最中に前腕が表面から離れないようにテーブル、アームレスト上に安定させる必要があります。ストラップを使用するか、手関節の真上で前腕を手で抑えることにより可能となります。

器具の設定

床の上で物差し-木製ブロック組立て部品を用いて、分度器を物差しの上に挟み、以下に示すように並べます。

腕がテーブルの上にある場合は、テーブルの上で分度器をL字ブラケットに挟むことができます。



セットアップ手順

被験者は（車）椅子に座り、前腕をテーブルの上に乗せて腕をアームレストの上かテーブルの横に置き、手掌を下にして端部の上で手を屈曲させます。分度器カードを被験者の手の横に置き、手関節の回転軸が 0° になるようにセットします。第2 MCP 関節の先端部で測定可能な他動的 ROM を測定し記録します。他動の最大可動域から 10° 少ない位置に分度器カード上へ矢印のターゲットを貼ります（画像参照）。回数を数えるには、被験者はその後、手関節を少なくともこの位置まで背屈させなければなりません。

アームレストの上に置く場合は、ベルクロストラップで前腕を固定します。

前腕がテーブルの上にある場合は、検査中に手関節の真上に手で圧力をかけて安定させます。

被験者への指示

「手首をできるだけ高く上に曲げ、その後、下に最後まで下げます。腕はアームレストの上に置いたままにします。これを今練習してみてください。」

（被験者が動作を行う）

「それでは、30 秒間でできるだけ多くそれを行ってください。それぞれの反復動作を完全に完了させるようにしてください。準備はよろしいでしょうか。」

（応答を待つ）

「私が、「はじめ (GO)」と言ったら開始してください。」

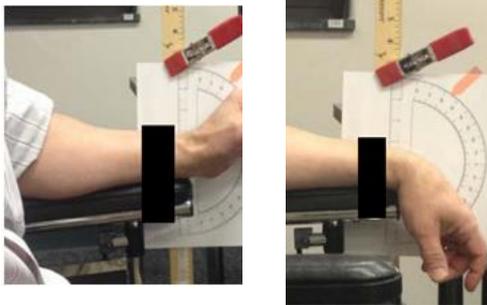
あなたは、「はじめ (GO)」と言った時にタイマーを押します。

「はじめ」

スコア評価

完全な完了とは、手関節をターゲットまで上げて、その後、屈曲位置に戻すことです。

部分的完了には、少なくとも中間位まで手関節を上げることが要求されます。



注記

検査中には励ましやフィードバックを行います。被験者が手関節を完全に上に曲げていない場合は、手をターゲットまで確実にしっかりと上げるよう被験者を指導します。その反復動作を数えないようにします。中止や再開はしないでください。

ITEM 7a: ACQUIRE-RELEASE PART 1 – GRASP DYNAMOMETER

動作

握る位置で握力計の周囲に手指を添わせませす。
腕で引き離すことなく指を伸展して握力計を放します。

目的

被験者が円筒握りを用いて物品を握り、放すことができるかどうかを判定します。

器具

標準的なハンドヘルド握力計

重要な要素

握力計を被験者の手の正面に持ちます。リーチすることは、このタスクの一部ではありません。被験者が握力計から腕を引き離し、指を離さないようにします。

器具の設定

握力計の3の位置にハンドルを設定します。握力計がゼロを示していることを確認します。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばして座り、肘関節は被験者の横で約 90° 屈曲させ、関節は中間位で母指が上を向くようにします。被験者が握力計の正面で腕を上げたままにしておけない場合は、前腕をテーブルまたは車椅子のアームレストの上に置くようにします。鎖骨中央線の位置で被験者の正面に握力計を置きます。手の真正面にダイナモメーターを設置します。被験者が、掴むことができない場合は、被験者の手を握力計周辺の標準的な位置に置きます。

被験者への指示

「右（左）手を握力計のハンドル周囲の握る位置に置きます。対側の手を使って補助しないようにします。」できない場合は、被験者の手を握力計の周囲に置きます。「ここで、手を開いてダイナモメーターを放します。ハンドルに触れないよう指を十分に開く必要があります。握力計から単に手を引き離さないようにしてください。」

スコア付け

検査の「握る」および「放す」部分について「YES」または「NO」に印をつけます。
部分的完了の評価項目なし。

注記

最初のトライアルの前に「握る」および「放す」をスコア付けします。YES/NO。
被験者は十分に手を開き/指を伸展させて指をハンドルの周囲に置き、握る位置で指を閉じることが可能でなければなりません（画像参照）。手掌と指が両方とも握力計に触れている必要があります。被験者はテノデシスを用いて握ることができます。すなわち、手を開く助けとなるよう手関節を屈曲させて、手関節を伸展させてハンドル周囲で指を閉じることができます。また握力計に触れないだけ指が十分に開いている限り、テノデシスを用いて放すこともできます。

ITEM 8: GRASP DYNAMOMETER

動作

握力計をできるだけ強く握りしめます。

目的

被験者が円筒握りを用いて力を出すことができるかどうかを判定します。

器具

標準的な握力計

重要な要素

まずは被験者の手を握力計の周囲に置きます。握力のダイヤルは被験者ではなくあなたの方に向いているようにします。握力はポンドではなくキログラムで読んでいることを確認します。

開始前に握力計がゼロを指していることを確認します。握って、放します。

ダイヤルはゼロを示している必要があります。握力の針は最高値を示している必要があります。

器具の設定

握力計のハンドルを3の位置に設定します。

握力計が正しくゼロを指していることを確認します。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばして座り、肘関節は被験者の横で約 90° 屈曲させ、関節は中間位で母指が上を向くようにします。被験者が握力計の正面で腕を上げたままにしておけない場合は、前腕をテーブルまたは車椅子のアームレストの上に置くようにします。被験者に手をハンドルの周囲に置いてもらうか、手をハンドル周囲に置くのを助けます。

被験者への指示

「右（左）手でハンドルを3回握ることになります。

私が、「はじめ（GO）」と言ったら開始してください。「やめ（STOP）」と言うまでできるだけ強く握ってください。

準備はよろしいでしょうか。」

（応答を待つ）

「はじめ。握って、握って、握って…やめ」

握力の測定はキログラムで記録します。握力の指針をゼロに戻します。

あと 2 回繰り返します。

スコア付け

0.5kg 単位で握力をキログラムで記録します。

注記

検査中には励ましを行います。ポンドとキログラムがどちらも記載されている場合は数値の小さいほうがキログラムになります。

ITEM 9: LATERAL PINCH

動作

- A. 側腹つまみを用いて薄い物品を把持します。
- B. 側腹つまみを用いて物品を強く把持します。

目的

被験者がアイテムを持つのに側腹つまみを使用できるかできるかどうかを判断します。

器具

ストップウォッチ、クレジットカード、ピンチ力計

重要な要素

- パート A： 被験者は薄いカードを把持したまま維持できることが要求されます。
- パート B： ピンチ力の測定はキログラムになります。確実に正しい値を読むようにします。開始前にピンチメーターが正しくゼロになっていることを確認します。

器具の設定

ゼロになっているピンチメーター。握る際は針はゼロを示している必要があります。放す際はピンチ力の針は最高値のままになっている必要があります。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばした姿勢で座ります。ポジションは、手掌が下に向いていること以外、握力計と同様です。

パート A：被験者の手の正面でクレジットカードを垂直に持ちます。

パート B：被験者の手の正面でピンチメーターを垂直に持ちます。

被験者への指示

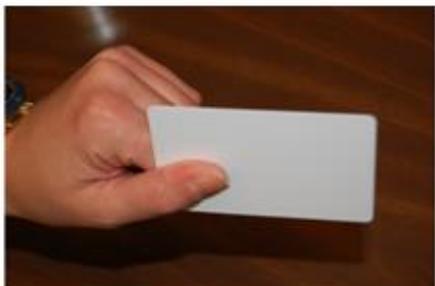
- A. 「右（左）母指と示指の側面を用いてこのクレジットカードを掴み、それを 5 秒間持ったままにしてください。」
- B. 「それではクレジットカードの持ち方と同様にこのピンチメーターを持ち、できるだけ強く掴んでください。これを 3 回行います。私が、「はじめ（GO）」と言ったら開始します。私が、「やめ（STOP）」と言うまでできるだけ強く掴んでください。

準備はよろしいでしょうか。」

（応答を待つ）

「はじめ。握って、握って、握って…やめ」

ピンチ力はキログラム単位で記録します。あと 2 回繰り返します。



スコア付け

- A. スコアシートの適切なブロックに印をつけます。
- B. 0.5kg 単位で握力を記録します。

注記

検査中には励ましを行います。各トライアル後にゼロの確認。ポンドとキログラムがどちらも記載されている場合は、数値の小さいほうがキログラムになります。

このページは意図的に空白にしています。

ITEM 10-11: PULL-PUSH

動作

テーブルの上にある物品を自分のほうへ引き寄せるか、またはスライドさせます。

目的

引く：重さの異なる物品を身体の方角に移動させるのに十分なだけの肘関節の屈曲/肩関節の伸展ができるかどうかを調べます。

押す：重さの異なる物品を身体から離す方向に移動させるのに十分なだけの肘関節の伸展/肩関節の屈曲ができるかどうかを調べます。

器具

摩擦を増やすために底に発泡ボードが貼り付けられ手関節ストラップがすでに取り付けられた小さな円形のパン、0.5kg のウエイト（重り）2 個、1kg のウエイト 1 個、2kg のウエイト 1 個、物差し、円形の標識（マーカー）。

重要な要素

被験者の握力が強くない場合は、パン上のストラップに手を固定します。パンが横に滑ることなく被験者が押せるように平坦な場所にパンを置きます。指をストラップに保持するのに、手の周囲に 2 本目のストラップが必要となる場合があります。手関節のポジションは重要ではありません。押している最中に手関節を曲げることも伸ばすこともできます。被験者は身体を使って引く/押すことをしないようにする必要があります。腕を使用しなければなりません。

器具の設定

被験者の手を円形のパンに取り付けられた手関節ストラップに固定します。

被験者が握力を使う必要がないようにストラップを強く固定します。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばして座り、身体を前方に倒さないようにします。被験者はテーブルの近くにいるようにします。被験者の右（左）上肢を伸展させたポジションでテーブル上に静かに置き、鎖骨中央線上で、肘関節を 20° 屈曲させたポジションにします（画像参照）。被験者はストラップに指を通してひっかけ、ストラップを締めます。握力が強くない被験者については、滑り落ちないように 2 本目のストラップを閉じた指の周囲に巻くことができます。被験者の腕の外側に物差しを置き、円形の標識を MP 関節のレベルに置き、「引く」ときの開始位置（および押すときの終了位置）を示します。



被験者への指示

「テーブルの端に手が届くまで自分のほうにパンを引き寄せます。そして自分から離すように手が円形の標識に届くまでパンを押します。これを今練習してみてください。」

（被験者が動作を行う）

空のパンでうまくできた場合は、徐々にウエイトを重くして終わりまで繰り返します。被験者自身でできない場合は被験者の手の位置を再配置します。

重りの合計	
第1 試行：空のパン	> 重りなし
第2 試行：1/2kg 追加	> 1/2kg
第3 試行：1/2kg 追加	> 1kg
第4 試行：1kg 追加	> 2kg
第5 試行：2 kg追加	> 4kg

スコア付け

「引く」と「押す」について終了した最高重量の枠を個別にチェックします。

注記

各方向（引く・押す）は、個別に評価する別々の動作です。

例えば、0.5kg を引くことはできても押せない場合は、より重い重量で「引く」検査を続けます。

計数するには、パンを一方向に完全に動かすことが要求されます。

部分的完了の評価項目なし。

ITEM 7b: ACQUIRE-RELEASE PART II – Container

動作

指先で大きな物品（プラスチック容器の蓋）を掴み、放します。

目的

被験者が4本の指すべてと母指のDIP関節を用いて（広く正確な握り方で）物品を掴み、放すことができるかどうかを判定します。

器具

蓋の付いたプラスチック容器

重要な要素

被験者が掴む動作を試みている最中に、検査者は容器を固定させることができます。



掴む動作と放す動作は別々にスコア付けします。

器具の設定

被験者の正面、手の横の鎖骨中央線上に空の容器を直立に置きます。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばした姿勢で座ります。被験者の正面、鎖骨中央線上に容器を置きます。被験者の右（左）上肢をテーブルの上に置き、肘関節は被験者の側で90°に屈曲させます。前腕をまっすぐにして（すなわち、肩関節は内外旋中間位の状態で）母指を上側にします。

被験者への指示

「親指と指先でこのように容器の上を掴み（適切な握り方を実演するか画像を見せ）、そして指を開いて、腕を引き離すことなく容器を放してもらいます。（適切な放し方を実演）これを今練習してみてください。」

（被験者が動作を行う。必要であれば容器を安定させる）

「OK です。それでは容器を掴んでください。」

（被験者が掴むことができない場合は、蓋の上に手を置き、放す検査を行う。）

「容器を放してください。」



スコア付け

掴む動作と話す動作について「YES」または「NO」をチェックします。

注記

ITEM 12: CONTAINER

動作

指先で大きな物品—すなわちプラスチック容器を掴み、持ち上げます。

目的

被験者が4本の指すべてと母指のDIP関節を用いて（広く正確な握り方で）、物品を持ったままでいられるかどうかを判定します。

器具

プラスチック容器、0.5kgのウエイト2つ、高さが調節可能なテーブル、ストップウォッチ

重要な要素

この項目は握力に関係しています。被験者が蓋の上の正確な位置に手を置くことができない場合、検査者が被験者の手を蓋の上の適切な位置に置いてあげる必要があります。

器具の設定

被験者の正面のテーブル上に空の容器を立てて置きます。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばした姿勢で座ります。被験者の右（左）上肢をテーブルの上に置き、肘関節は被験者の側で90°に屈曲させます。前腕をまっすぐにして（すなわち肩関節内外旋中間位の状態）母指を上にしします。被験者の正面、手の横の鎖骨中央線上に空の容器を置きます。二つ目の手でストップウォッチまたは秒針付きの時計を使い、持ち上げている時間を測ります。

被験者への指示

「親指と指先で容器の蓋を掴み、次に容器を持ち上げて5秒間保持します。これを今練習してみてください。」

（被験者が動作を行う）

掴むことができない場合は、握りをテストするために蓋の上に手を置きます。

「OKです。それでは容器を持ち上げてください。」

（5秒間時間を測る）

あなたが、容器を下に下ろすことができます。

成功した場合は、0.5kgのウエイトを追加して繰り返します。

成功した場合は、さらに0.5kgを追加して（ウエイトを1kgに増やして）繰り返します。



スコア付け

指定された時間を持ち上げた最高重量の杓をチェックします。

注記

ITEM 13: PINCH DIE (2-finger tip)

動作

掴む：母指と示指を用いて小さな物品（サイコロ）を拾い上げ、指先でつまみます。

目的

被験者が指先でつまんで小さな物品を拾い上げることができるかどうかを判定します。

器具

一对のサイコロ二つ、タイマー、矢印つきポストイット、小さなメジャー

重要な要素

物品は小さくて軽い一辺 1.6 cm の立方体。

被験者がサイコロを落とし転がって行ってしまった場合のために予備のサイコロを用意しておきます。

サイコロを代わる代わる拾い上げなければなりません。同じものを 2 回続けて動かさないようにします。

所定の握りパターンを使用しなければなりません。被験者が握りのタイプを切り替えた場合に観察し、修正します。

器具の設定

被験者はテーブルの横の（車）椅子に座り、被験者の正面、鎖骨中央線上に標識（マーカー）1 を置きます。テーブル上の最初の標識の約 4 インチ（10 cm）内側に標識 2 を置きます。図に示すように標識 1 の上および下にサイコロを置きます。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばした姿勢で座り、腕は中間位でテーブルの上に置きます。被験者の右（左）上肢をテーブルの上に置き、肘関節は被験者の側で 90° 屈曲させます。前腕をまっすぐにして（すなわち肩関節内外旋中間位の状態）母指を上に出します。サイコロは検査を行う腕と同一の側に置きます。

被験者への指示

「右（左）母指と人差し指のみを使用してこのサイコロを掴みます。これを拾い上げてもう一つの標識の横に置き、そして別のサイコロでこれを繰り返します。サイコロを前後に動かし続けます。（被験者に実演する）

これを今練習してみてください。」（被験者が動作を行う）

「それでは、30 秒間でできるだけ多くそれを実行します。それぞれの反復動作を完全に完了させるようにしてください。準備はよろしいでしょうか。」（応答を待つ）

「私が、「はじめ (GO)」と言ったら開始してください。」

あなたは、「はじめ (GO)」と言った時にタイマーを押します。

スコア付け

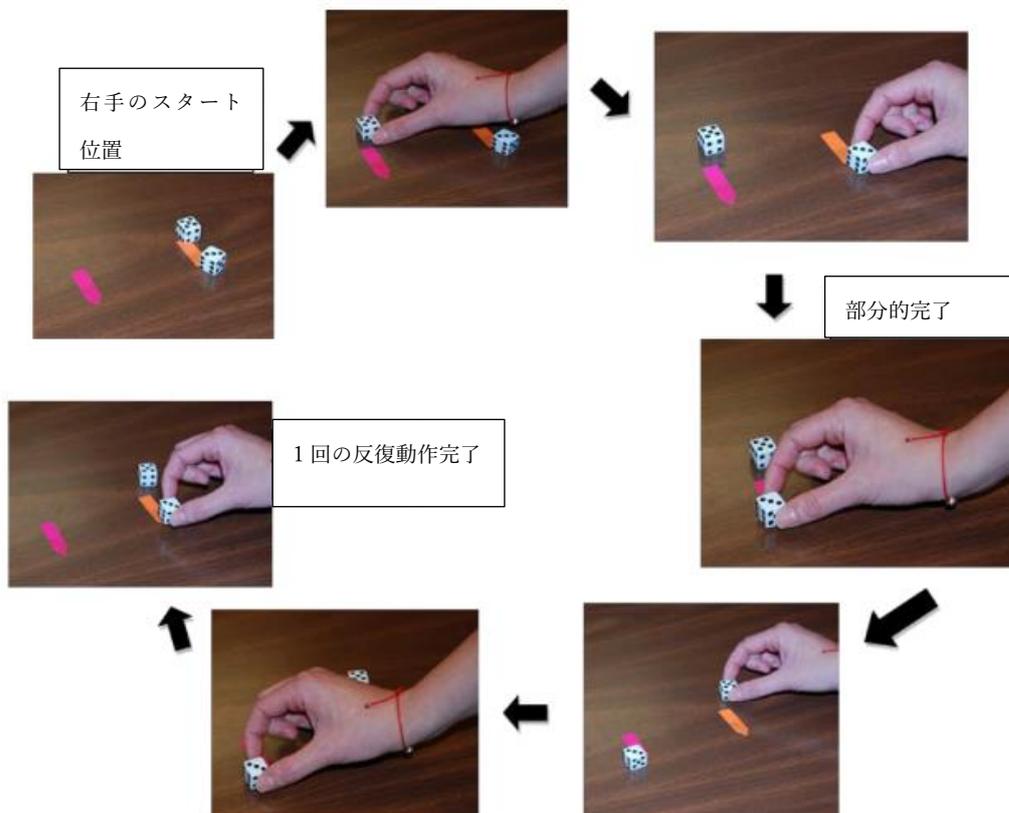
30 秒間で完全に反復動作を行った回数を記録します。

完全な完了とは、両方のサイコロを標識 1 から標識 2 に移動させ、標識 1 に戻すことです。

部分的完了には、両方のサイコロを標識 2 に移動させることが要求されます。

注記

被験者がサイコロを落とし、それに手が届く場合は、被験者にそれを拾い上げてもらい、継続してもらいます。サイコロが転がって行ってしまった場合は、サイコロを拾い上げた場所の標識にもう一つのサイコロを置きます。検査を中止または再開しないでください。励ましを行い、間違った握りを速やかに修正します。



ITEM 14: PENCIL (3-finger tip)

動作

三指つまみを用いて小さな物品（鉛筆）をつまみ上げます。

目的

被験者が三指つまみ（三点つまみ）を用いて小さな物品（鉛筆）をつまみ上げることができかどうかを判定します。

器具

タイマー、数本の削っていない# 2 鉛筆、10 cm 間隔の穴の開いた木製ブロック、滑り止めマット

重要な要素

鉛筆用の穴は鉛筆の直径よりもほんの少しだけ大きくします。穴の角度は垂直から 30° です。予備の鉛筆を用意します。被験者が鉛筆を落とした場合は、それを拾った場所の穴に別の鉛筆を入れます。

器具の設定

穴の開いた木製ブロックをテーブルの上に置き、鉛筆を外側の穴に入れます。

30 秒から 0 秒に遡るようにタイマーを設定します。



セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばした姿勢で座り、腕は中間位でテーブルの上に置きます。鉛筆の入った外側の穴をテーブルの上の被験者の正面、鎖骨中央線上に置きます。鉛筆用のもう一つの穴は最初の穴から 10 cm 内側に離れているものとします。

被験者の右（左）上肢をテーブルの上に置き、肘関節は被験者の側で 90° 屈曲させます。前腕をまっすぐにして（すなわち肩関節内外旋中間位の状態）母指を上にします。必要な場合、検査者は鉛筆のホルダーを安定させます。

被験者への指示

「右（左）手の母指と最初の 2 本の指を用いてこの鉛筆を掴みます。それをつまみ上げて中央の穴に入れます。そして手をテーブルの上に置きます。次に、鉛筆をつまみ上げて元の穴に戻し、手をテーブルの上に置きます。（適切な握り方で被験者に実演する）

これを今練習してみてください。」

（被験者が動作を行う）

「それでは、30 秒間でできるだけ多くそれを実行します。それぞれの反復動作を完全に完了させるようにしてください。

準備はよろしいでしょうか。」（応答を待つ）「私が、「はじめ（GO）」と言ったら開始してください。」あなたは、「はじめ（GO）」と言った時にタイマーを押します。

スコア付け

30 秒間で完全に反復動作を行った回数を記録します。

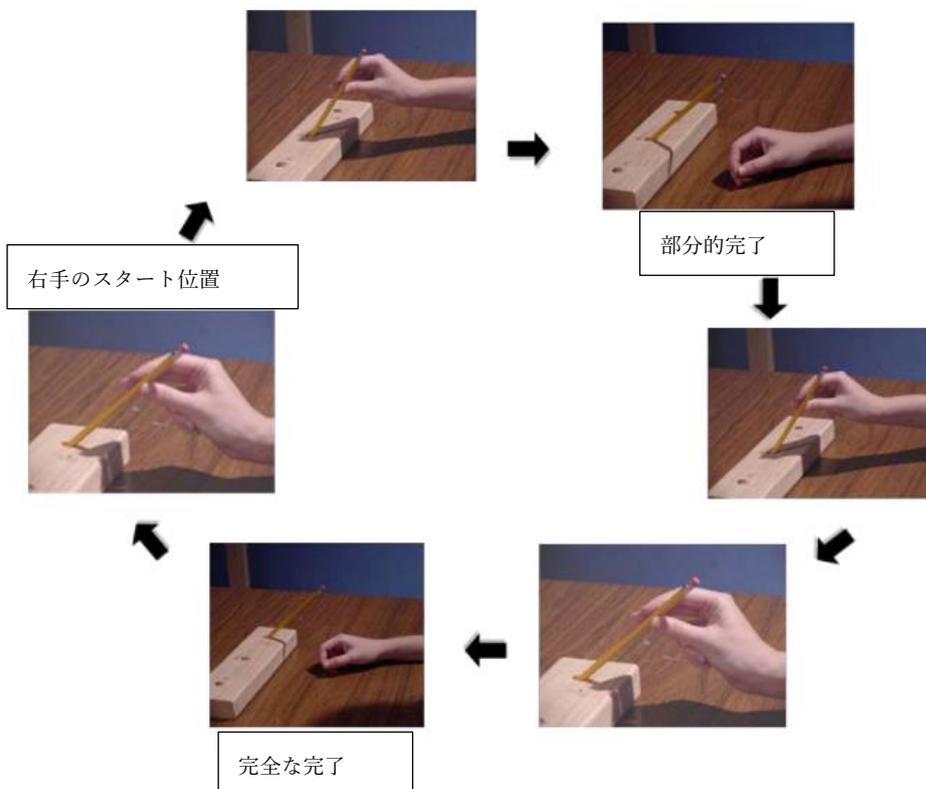
1 回の反復動作とは、鉛筆を中央の穴に移動させ開始地点に戻すことです。

注記

部分的完了とは鉛筆を中央の穴に移動させることです。

被験者が鉛筆を落とした場合は、それが最後に入っていた穴に別の鉛筆を入れ、時間の測定を続けます。

検査を中止または再開することはしないでください。



ITEM 15: MANIPULATE TWO-COLOR CHIP

動作

小さな物品の手内操作。

目的

被験者が母指と指を使って小さな物品を操作することができるかどうかを判定します。

器具

およそ 25 セント硬貨サイズの二色チップ、一面がもう一つの面と対照色、タイマー、高さが調節可能なテーブル、予備のチップ



重要な要素

完全な回転を数えやすくするため、チップはそれぞれの面の色が異なります。被験者がチップを落とす場合に備え予備のチップを用意しておきます。チップを裏返すのに手掌ではなく、指と母指を使わなければなりません。

器具の設定

数個のチップを用意します。30 秒から 0 秒に遡るようにタイマーを設定します。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばした姿勢で座ります。

被験者の右（左）上肢をテーブルの上に置き、肘関節は被験者の側で 90° 屈曲させます。前腕をまっすぐにして（すなわち肩関節内外旋中間位の状態）手掌を上に出します。被験者の手の母指と中指/環指の指先の上にチップを置き、色のついた面を上に出します。

被験者への指示

「母指と指を使って手の中でこのチップを繰り返しひっくり返していただきます。」被験者に実演します。

「これを今練習してみてください。」（被験者が動作を行う）「それでは、30 秒間でできるだけ多くそれを実行します。それぞれの反復動作を完全に完了させるようにしてください。」

準備はよろしいでしょうか。」(応答を待つ)「私が、「はじめ (GO)」と言ったら開始してください。」あなたは、「はじめ (GO)」と言った時にタイマーを押します。

スコア付け

30秒間で完全に回転した回数を記録します。

完全な完了とは完全な回転です。赤色（黄色）面が上から赤色（黄色）面が上まで。

部分的完了には落とさずに半分回転させることが要求されます。

注記

被験者がチップを落とした場合は、手の中の開始位置で取り替えます。時間の計測を続けます。検査を再開することはありません。



ITEM 16: PUSH INDEX - CALCULATOR

動作

伸ばした示指で物品を押します。

目的

ドアベルを鳴らすなど、日常的な活動に対して伸展させた示指を使用する被験者の能力を判定します。

器具

少なくとも 10 桁の数字が表示される計算機、ストップウォッチ、連続した 10 個の数字が書かれたカード：735-910-8246 および 281-495-7360、練習カード：(123-456-7890)

重要な要素

計算機もしくは計算機や電話のように数字が並んでいる数字キーパッドであるが、キーボードのように水平ではないもの。10 桁の数字が表示され、最後に入力した数字を消すことのできるものでなければなりません。

器具の設定

被験者の正面、手の横の鎖骨中央線上に計算機を置きます。計算機の前に練習用の数字が書かれたカードを置きます。ストップウォッチをゼロに設定します。削除ボタンがわかりにくい場合はステッカーで標識をつけることも可能です。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばした姿勢で座ります。被験者の右（左）上肢をテーブルの上に置き、肘関節は被験者の側で 90° 屈曲させます。前腕をまっすぐにして（すなわち肩関節内外旋中間位の状態）母指を上に出します。

最後に入力した数字を削除する方法など、計算機の使用方法を実演します。計算機上にステッカーで示した戻るボタンの使用法を被験者に指導し、戻る/修正する操作を教えます。開始準備ができるまでカードの右および左側を覆っておきます。

被験者への指示

「人差し指を用いてボタンを押し、計算機にこの数字を入力します。これを今練習してみてください。」削除/戻るなどの操作を、被験者に一度練習してもらいます。

[124-456-7890]。スクリーンをクリアにします。

「それでは次に入力する数字をお見せします。私が、「はじめ (GO)」と言ったら開始して

ください。」

右手または左手に関して数字を見せ、「はじめ (GO)」と言います。はじめ (GO) でストップウォッチをスタートさせます。正確に完了または 90 秒に到達したところで停止します。もう一方の手に対して数字の操作を繰り返します。

スコア付け

正しい数字を入力する時間を 0.1 秒単位で記録します。

注記

完了するまでの最長時間は 90 秒間とします。

完了していない場合は、不可能とマークします。



ITEM 17: PUSH THUMB – CELL PHONE

動作

母指の IP 関節を用いて物品を押します。

目的

携帯電話やリモコンを使用するなど、母指を使用して携帯機器を操作する被験者の可動能力を判定します。

器具

携帯電話、ストップウォッチ、連続した 10 個の数字が書かれたカード：846-310-5372 および 947-361-0528、練習カード：(123-456-7890)

重要な要素

携帯電話は手掌におさまるほどの小ささでなければなりません。タッチスクリーンではなく、ボタンがついているものとします。検査する母指と同じ手で携帯電話を持つようにします。

器具の設定

テーブルの上の被験者の正面に練習用の数字が書かれたカードを置きます。ストップウォッチをゼロに設定します。電話機器上の戻るボタンがわかりにくい場合はステッカーで標識をつけることも可能です。

セットアップ手順

被験者は（車）椅子に背筋を伸ばした姿勢で座ります。被験者の右（左）上肢をテーブルの上に置き、肘関節は被験者の側で 90° 屈曲させます。前腕をまっすぐにして（すなわち肩関節内外旋中間位の状態）、母指を上にします。

最後に入力した数字を削除する方法など、電話の使用方法を実演します。被験者に一度練習してもらいます。[1234567890]

被験者の正面に数字の書かれたカードを置きます。右手と左手で異なる数字を使用します。

被験者への指示

「親指を用いてボタンを押し、電話にこの数字を入力します。これを今練習してください。」削除/戻るなどの方法を、被験者に一度練習してもらいます。[124-456-7890]。スクリーンをクリアにします。

「それでは次に入力する番号をお見せします。私が、「はじめ (GO)」と言ったら開始してください。」右手または左手用の番号を見せ、「はじめ (GO)」と言います。はじめ (GO)

でストップウォッチをスタートさせます。正確に完了または 90 秒に到達したところで停止します。もう一方の手に対して数字の操作を繰り返します。

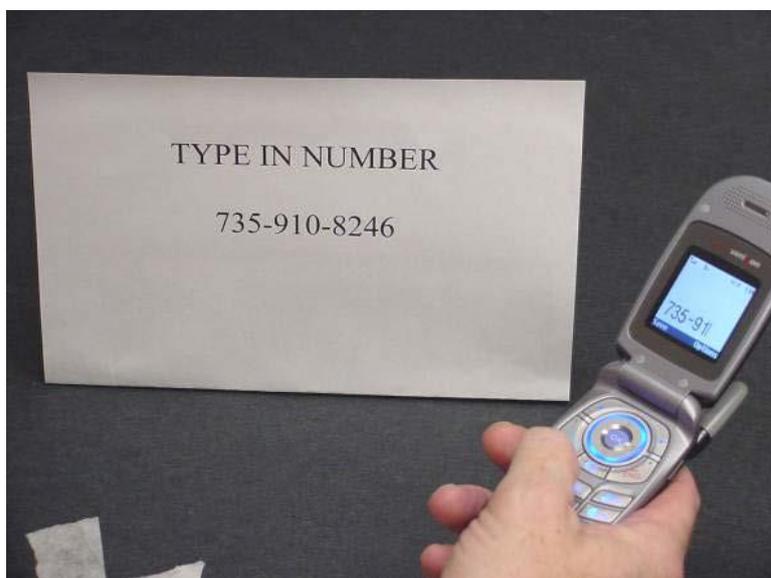
スコア付け

正しい数字を入力する時間を 0.1 秒単位で記録します。

注記

完了するまでの最長時間は 90 秒間とします。

完了していない場合は、不可能とマークします。



【日本語版 CUE-T 作成 監修】

千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長

菊地 尚久

【日本語版 CUE-T 作成 編集／有効性の検証 担当】

千葉県千葉リハビリテーションセンター

リハビリテーション治療部 成人療法室 第二作業療法科

茨城県立医療大学 大学院 保健医療科学研究科

神保 和正

千葉県千葉リハビリテーションセンター

リハビリテーション治療部 成人療法室 第二作業療法科 科長心得

高浜 功丞

リハビリテーション治療部 成人療法室 第二作業療法科

吉村 友宏

リハビリテーション治療部 成人療法室 作業療法士 副部長

安森 太一

リハビリテーション治療部 成人療法室 第二作業療法科

岡 駿之介

同上

筧 麻里

同上

村上 菜穂

同上

岡 範子

同上

田中 祐子

同上

佐藤 里衣

同上

赤羽 美菜子

同上

横田 翠

同上

柴 穂乃歌

同上

高松 位誓

更生園 作業療法士

越田 智子

高次脳機能障害支援センター 作業療法士

岡本 美希子

リハビリテーション治療部 小児療法室 作業療法科 科長心得

三屋 邦明

リハビリテーション治療部 小児療法室 作業療法科

川原 佑亮

同上

吾妻 紀子

リハビリテーション治療部 小児療法室 理学療法士 副部長

村山 尊司

茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科

教授 白石 英樹

【研究助成金】

日本語版 CUE-T は、令和 3 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業、研究課題名『障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム及びその評価手法開発に関する研究』）を受け、作成した。

Created by Japanese version of CUE-T, Supervised :

Chiba Rehabilitation Center , Chiba, Japan

Naohisa Kikuchi, MD/PhD

Created Japanese version of CUE-T, edited / Verified effectiveness :

Department of Rehabilitation Therapy, Chiba Rehabilitation Center, Chiba, Japan

Graduate School of Health Sciences, Ibaraki Prefectural University of Health Sciences

Kazumasa Jimbo, OTR

Chiba Rehabilitation Center, Chiba, Japan

Department of Rehabilitation Therapy

Kousuke Takahama, OTR/MA

Tomohiro Yoshimura, OTR

Taichi Ysumori, OTR

Shunnosuke Oka, OTR

Mari Kakehi, OTR

Naho Murakami, OTR

Noriko Oka, OTR

Yuuko Tanaka, OTR

Rie Satou, OTR

Minako Akahane, OTR

Midori Yokota, OTR

Honoka Shiba, OTR

Ichika Takamatsu, OTR

Kuniaki Mitsuya, OTR

Yuusuke Kawahara, OTR

Noriko Azuma, OTR

Department of Kouseien

Tomoko Koshita, OTR

Department of High brain dysfunction support Center

Mikiko Okamoto, OTR

Department of Rehabilitation Therapy

Takashi Murayama, PTR/PhD

Department of Occupational Therapy, Ibaraki Prefectural University of Health Sciences

Hideki Shiraishi, OTR/PhD

Funding :

We would like to acknowledge the financial support provided by Health and Labor Sciences Research Grant, Reiwa 3rd year "Policy Comprehensive Research Project for Persons with Disabilities, Research Project Title "Study on Social Rehabilitation Support Program for Persons with Disabilities and Development of Evaluation Method".

Copyright © 2016 Thomas Jefferson University

This work is licensed under the Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International License. To view a copy of this license, visit <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/> or send a letter to Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA 94042, USA.

This manual is intended for the express use of training professionals in the conduct of the Capabilities of Upper Extremity Test (CUE-T™). No part of this publication may be modified. It may be reproduced for non-commercial use.

Contact the Department of Rehabilitation Medicine, Thomas Jefferson University for information on commercial use.

Recommended Citation:

Marino RJ. Capabilities of Upper Extremity Test Manual of Administration, Version 1.1, Thomas Jefferson University, Philadelphia, PA 2016.

Published by the Department of Rehabilitation Medicine, Thomas Jefferson University, Philadelphia, PA 2016

For additional copies contact:

The Regional Spinal Cord Injury Center of the Delaware Valley
Thomas Jefferson University, Department of Rehabilitation Medicine
132 South 10th St.; Suite 375 Main Building
Philadelphia, PA 19107

Phone: (215) 955-6579

Fax: (215) 955-5152

Website: www.spinalcordcenter.org

The development of the CUE-T™ was funded in part by grants to Thomas Jefferson University and the Regional Spinal Cord Injury Center of the Delaware Valley by:

-The National Institute on Disability and Rehabilitation Research, U.S. Dept. of Education
#H133N060011

-The Craig H. Neilsen Foundation #260957